

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344

「三愛ビュー」創刊に当たって

三愛会理事長 三船 和史

昭和53年三船病院の機関紙「三愛ニュース」が創刊されました。企画室が担当し、主に院内各部門からの記事で構成されていました。10年後の昭和63年精神保健法改正の年に「三愛ニュース」に替わって、時代の流れを先取りした形で記事の内容を地域ケアに重点を置いた「三愛ネットワーク」が相談室によって発刊されることになり、三船病院の積極的な地域ケア活動をご家族や関係機関等に情報紙として発送してきました。

平成2年には老人保健施設福寿荘が創設され、その後福寿荘独自の機関紙も発行されるようになりました。平成9年には精神障害者社会復帰施設である援護寮「花園荘」、地域生活支援センター「はなぞの」が創設され、主要な相談室スタッフが同施設に異動したことに伴い従来の「三愛ネットワーク」に替わって、地域生活支援センター「はなぞの」の機関紙「はなぞのネットワーク」が創刊されることになりました。「はなぞのネットワーク」はもはや三船病院とは完全に独立した内容になっており、三船病院独自の機関紙は存在しなくなったのであります。一方、平成6年三船病院の中に創設された老人性痴呆疾患療養病棟「ローズ」が、主としてご家族対象の「ローズだより」を平成14年から独自に発行し好評を博しています。

このような機関紙の変遷とともに、三船病院の精神科医療は大きく前進してきました。一方、三愛会は400数十名の職員に達し、三船病院と介護老人保健施設「福寿荘」、そして社会復帰施設援護寮等は組織的にはそれぞれ独立した存在であるとともに、三船病院だけでも組織が大きくなり、人と人との繋がりが希薄になってしまった感があります。そこでこのたび原点に戻って「三愛ニュース」の精神を復活させ、名称を「三愛ビュー」とした機関紙を発行することになりました。「三愛ネットワーク」が対外的情報発信に重点を置いていたのに対して、「三愛ビュー」は三愛会職員を対象とする社内報であると同時に、外部に対する情報公開の役割をも持たせ、入院及び外来の患者さま、そしてご家族や関係機関の方々にも読んで

いただけるものにしていくつもりであります。したがって「三愛ビュー」には三愛会のあらゆる部門からの情報を掲載していく予定であります。

今年には三船病院創立50周年という大変記念すべき年であります。記念事業の一環として6月1日南館をオープンし、7月1日からは従来のコンピュータシステムの機能を大幅にアップしたオーダーリングシステムを導入し、7月1日の創立記念日にオークラホテル丸亀において、全職員、三愛会OB、三愛会役員による祝賀会を開催しました。最大の記念事業である南館は従来の精神科病棟のイメージを一掃し、アメニティと機能を最大限に引き出し、これからの精神科医療のあらゆるニーズに応える病棟であります。今後10年間で我が国の精神科医療はさらに大きな変革を遂げると予測しています。三船病院としては南館を含む種々の豊富な資源を活用して、時代の流れに即応した先進的な精神科医療を提供していきたいと思っています。

今後の三船病院の精神科医療の動きを紙面で伝えていければと思っています。「三愛ビュー」が評価される機関情報紙に育っていくよう関係者のご協力をお願い申し上げます。



精神科看護から見る南館設立

三船病院看護部長 佐藤 ミサ子

当院は、今年精神科病院を開設(1953年)して創立50周年になりその記念行事として2002年7月頃より新築工事に取りかかり、2003年3月末に3階建ての南館を設立しました。これまでは病床数590床で運営していましたがそのうち建物が古い病棟と機能上問題のある病棟、合計198床を閉鎖して南館178床に移行することになり、2003年6月1日に南館へ移動しました。南館はこれまでの精神科病棟のイメージを一掃した病棟で、ナースステーションを挟んで両サイドに異なる機能の病棟ゾーンを配置しています。一人当たりの居住面積を広くカーテンと間仕切り家具でプライバシーを保持でき、ゆとりのある療養環境が提供できます。以下、病棟の紹介をしたいと思います。

病棟機能として1階は精神科急性期の男性閉鎖病棟です。一般病室ゾーン(42床)、保護室ゾーン(16床、PICU含む)があります。この病棟の特徴は、以前の保護室だけが独立した病棟と、一般閉鎖病棟との連携が構造上困難であったため、両者を一体化させ保護室から一般病室への移動をスムーズにしている点にあります。また純粋な保護室が半数以下となり、格子ではなくポリカーボネートを使用し明るく、状態に応じて洗面所も使用でき、トイレもプライバシーを保持できる一般病室に近い個室化も重視しています。一般病室ゾーンは閉鎖病棟ですが、中庭のウッドデッキで青空の下自由に日光浴を楽しむことができます。

2階は男性開放病棟(60床)です。この病棟には、アルコール症専門病室ゾーン(8床)があり専用の出入口が設置され、同じ病棟の一般病室ゾーンと全く独立した運用をしています。

3階は男女混合開放病棟(60床)です。ここではストレスケア病室ゾーン(8床)があり有料の個室もタイプ別に選べ、一般病室ゾーンとは独立した運用となります。高度情報化、ストレス社会が進む中で心の問題が一般に多様化しています。特にストレスから開放されて安心して治療を受けることができ、プライバシーが守られ他人に不要な気遣いをしなくて済む様な療養環境をめざしています。

このように、南館はバリアフリーを考えアメニティと共に機能を重視し、プライバシーと人権に配慮した患者様のニーズに対応できる病棟となっております。ハード面は、薬物療法・精神療法・看護・環境面などを含む治療の質を良くするひとつの手段であり、これらが準備された段階において今後は中身を如何にするかこれからのいよいよ正念場です。ソフト面において、患者様には必要な時、必要なだけの援助を適切に提供していけるよう努力していき、また看護の質を高め快適な入院生活を送ることができるようにしていきたいと思っております。



三船病院医師からのメッセージ...

禁煙を推進してください！

三船病院副院長 川田 浩

喫煙および受動喫煙(室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされることをいふ)は、肺癌、喉頭癌、虚血性心疾患、肺気腫、妊娠合併症等の疾病の原因となるなど健康に悪影響を与えることが医学的にわかっています。

一説によると日本でも年間約十万人もの人がたばこ関連疾患で死亡していると計算されています。海外には随分遅れをとりましたが、近年日本でも禁煙の気運は高まっております。日本呼吸器学会をはじめ、多くの医療関係の学会で禁煙宣言が出されています。

「ご存知の方も多いと思いますが、三船病院の職員食堂には、禁煙推進に関する日本医師会宣言禁煙日医宣言のポスターが貼られています。紙面上すべては書けませんが、「一、我々は、意思及び医療関係者の禁煙を推進する」、「二、我々は、全国の病院診療所及び医師会館の全館禁煙を推進する」等の内容です。職員の皆様には是非ともその宣言を熟読して、医療関係者として自覚を持ち、禁煙を推進して頂きたいと思っております。

部門紹介 三船病院 作業療法課

作業療法課課長 香川 卓也

平成15年7月中旬、旧6・7・8病棟の一部を改築した作業療法センターが完成し、作業療法士(以下OTR)・対象者とも新しい環境下で日々活動していくことになりました。そこで今回、当院における作業療法(以下OT)について簡単に紹介したいと思います。

OTRとは医師の指示のもとに、対象者に対して日常の主体的な生活の獲得を図る為、個々のニーズに合わせた様々な作業活動を行うことを通して、諸機能の回復や維持を促し、また再発を防止する為の治療や援助を行う医療の一専門職のことで、従来の医療が機能面を重要視したのに対し、OTは社会復帰に向け生活障害を克服し、社会適応能力を高めることを主眼としています。対象疾患としては、統合失調症、躁うつ病、発達遅滞などが主な対象ですが、最近では高齢社会を反映して、痴呆症への対応など対象とする領域は広がりつつあります。

当院のOTは、こころの病で失ったエネルギーを充填し、安心感や有能感を取り戻せるように情緒面への働きかけを大切に行っています。また、対象者が生きることへの意欲をもち、自立への道が開かれるよう、生活の中の具体的な作業活動を活用しながら対象者より良い関係を作ることに努めています。

具体的には農耕・園芸あるいは室内の内職的作業といった生産的作業、病棟単位で構成されるレクグループ、目的別に分けられたグループ OT などの各部門での諸活動を通し、社会生活上必要とされる集団適応能力の向上を図るとともに、幅広い作業活動への応用能力を回復させることに重点を置いています。

このように入院中の方に対するOTは、主治医の診察や本人の希望などから開始され、その後、豊富な作業環境であるOT室を拠点としつつ、時に院外でも援助や指導を行っています。病院での治療を終え回復期を過ぎた対象者に対しては、外来OTを充実させて自立生活の援助を行っていく計画でいます。

援助の方法は対象者自身の状況、考え方、また家族の意見をも含めたあらゆる角度から決定されるため、広い視野に立ってその人の将来像を描きながら進めることが重要です。

生活習慣、健康、安全、生活上の管理面での援助、就労生活に向けての作業活動など、地域での生活をよりよいものとするための手助けとして、OTRの役割は地味ではありますが、これからの病院医療や福祉社会を担う上でも重要になってくると考えています。

心理士コーナー



金曜日の朝

三船病院心理室課長 片山 泰生

金曜日になると「院内例会」と呼ばれる集会が開かれます。県下の複数の精神病院では、こうしたアルコール依存症の方々のためのプログラムが用意されています。院内例会は自助グループ「断酒会」と会場を提供している「病院」の依存症者の方々に回復して欲しいという願いが結びついた一つのメッセージといっているでしょう。院内例会は1)病院の入院・外来プログラムの補完、2)自助グループの活動の一環、3)家族・友人等が依存症者本人との関係を再生する、4)退院者が本格的に自助グループへ参加する足固め、5)依存症を理解していない医療・行政スタッフへの啓蒙、といった諸側面があります。院内例会の周辺には初期介入とアフターケア、再発防止の為の地域社会との交流など未整備なところが多いのですが、入院されている方々にとっては先ず院内例会をはじめとするプログラムをどう取り込むか、どう自立するかが回復のポイントです。アルコール依存症に対する自助グループの在り方、医療・行政のはたらきかけは旧精神衛生法の中では注目を集めましたが、現精神保健福祉法の中では他の精神疾患と抱き合わせになり影が薄くなってきています。依存症は自らの力で自らを治療し、自らを開いていく最新の治療形態と言えるでしょう。ever since.

9月の院内例会は5日、12日、19日に開催。問い合わせは心理室(片山泰生まで)。



三船病院相談室コーナー



第1回家族教室 『病気について知ろう』開催

相談室では精神保健福祉士5名が、精神障害を持つ方やご家族の相談援助を行っています。精神保健福祉士とは精神科ソーシャルワーカー(以下PSW)のことをさし、様々な社会資源の紹介や関係機関との連絡調整など、社会復帰への支援を行います。精神症状だけでなく長期の入院による意欲低下や認知の障害などにより、自身で問題を解決することが困難な方に対してPSWは当事者であるご本人が自らの問題に主体的に取り組めるよう支援致します。

また家族支援として、ご家族と関わりながら家族会活動や各保健所などで行われる家族教室についての情報提供をしまいましたが、病気について学びたい・疑問はあったがどこに聞けばよいか分からなかったなどの声を聞きます。そこでこの度相談室ではご家族の方に向けて、家族教室を開催したいと思います。

今年度第1回は、8/30(土)10:00~11:30 講師 三谷Dr.(当院医師)『病気について知ろう』で、内容は、病気や薬についてのDr.の講話と参加者による話し合いです。障害を持つ方の家族としての悩みや思いを共有する場、少しでも不安を解消する機会にしたいと思っております。

【介護老人保健施設 福寿荘の紹介】

介護老人保健施設とは、病状安定期にあり入院治療の必要はないが、リハビリテーション、看護、介護を中心とした医療ケアが必要な要介護者に対し、看護、医学的管理下における介護及び機能訓練その他必要な医療を行うとともに、その日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設です。

「福寿荘」は昭和62年5月に家庭復帰を目的としたリハビリテーションを行う施設として創設されました。入所定員は80名で、通所リハビリテーション部門(デイケア)の定員は20名です。入所の対象者は要介護度1以上で、短期入所・通所リハビリテーションの対象者は要支援・要介護の方です。また、別事業として指定居宅介護支援事業所を開設し、居宅サービス計画(ケアプラン)の策定も行っています。



【三愛会コミュニティケアセンターの紹介】

医療法人三愛会は、三船病院の他に介護老人保健施設「福寿荘」と精神障害者社会復帰施設部門で組織されています。このうち、社会復帰部門に対して今年度より「三愛会コミュニティケアセンター(通称)」と命名されました。この部門は、入所型の社会復帰施設である生活訓練施設「花園荘」、福祉ホーム「清和荘」と、通所型の社会復帰施設である地域生活支援センター「はなぞの」で構成され、また地域生活援助事業としてグループホーム「五月荘」も含まれています。

社会復帰施設は、精神保健福祉法内で定められた施設で、その種別によって役割や機能、利用の仕方が異なります。今後三愛view編集部では、これら「三愛会コミュニティケアセンター」の機能や動向についても情報提供していきたいと考えています。

三船病院からのお知らせ

【行事予定】

- ・8月23日(土) 夏まつり
- ・9月17日(水) ソフトボール大会

【委員会】

- ・医療事故防止委員会(第2水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・褥瘡対策委員会(第4水曜日)
- ・身体拘束廃止委員会(第4金曜日)

編集後記

この度、三愛会の機関紙として「三愛view」を三船病院相談室PSWで発行することになりました。障害者施策が地域福祉・在宅支援へと向かう中、精神障害者の分野でも精神保健福祉法の改正を受け平成14年度より福祉サービスの実施主体が市町村へ移行されました。このように私たちを取り巻く状況も大きく変化している今、病院PSWとしての役割やその在り方についてこれまで以上に考えていく必要性を感じています。この「三愛view」では三船病院・福寿荘・三愛会コミュニティケアセンターの活動を紹介するとともに、次々と変化する精神科医療、精神保健福祉の動向に関する情報もお届けしたいと考えております。